

同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局
School of Health Sciences, Shinshu University
第10号 2012年10月



—目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
山沢清人先生 学長のご挨拶	3
寺田克先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
新入教員のご挨拶	5
カーティン工科大学短期留学報告	6
平成23年度活動報告	9
総会記録	11
平成23年度事業報告	12
平成23年度医学部保健学科同窓会決算書	13
平成24年度事業計画	14
平成24年度医学部保健学科同窓会予算書	14
同窓会役員	15
信州大学医学部保健学科同窓会会則	15
編集後記	16

2012
第10号

保健学科がそして同窓会が10年目を迎えました！

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行
(検査技術科学専攻 病因病態検査学講座 教授)

同窓会会員各位が属している医学医療の分野へ有能な人材を送り出すために、医学部保健学科/大学院保健学専攻は着実に歩んで来ています。2012年3月には、看護学士72名、保健学士72名、そして看護学修士2名、保健学修士12名の大学院博士前期課程修了生を、更には保健学博士3名を博士後期課程修了生として排出しました。

保健学科が誕生し、また「保健学科同窓会」が設立されて節目の10年目を迎えました。保健学科は、そして大学院保健学専攻は、新しい知と技術の創出、そして若い研究者や技術者の育成のみならず、新たな知の創出へ向けての各医療職種分野との架け橋として大きな地域貢献をして来ています。そして、更に大きな一步を踏み出すための活動へ向けての真ただ中でもあります。

更に学び、更に究め、更に貢献する保健学科、大学院保健学専攻であり続けるために、信州大学医学部保健学科では、専攻/分野の研究・教育の充実・高度化はもとより、優秀な人材育成とともに、地域社会への研究・技術支援等も積極的に推進され、地域に密着しながらの貢献へ向けた活動が展開されています。

今年も6月の第4土曜日に保健学科同窓会の2012年度総会が開かれました。総会では、通常の審議事項に加えて、中校舎・北校舎耐震改修ならびに増築の案件に関連する事項について審議され、

- 1) 保健学科同窓会(現任教職員を含む)を基盤とする「地域保健推進センター設置基金管理組織(仮称)」の設置に関する件。
- 2) 保健学科同窓会の予算の一部を本案件に対する目的積立金として計上する件。
- 3) 増築が認められた場合、保健学科同窓会会員に対しての、寄付金依頼に関する件。

上記の3点についての承認がなされました。

さらに平成24年、保健学科同窓会創立10周年を

期し、記念セレモニーを、保健学科/大学院保健学専攻と共催するための準備が進められています。このセレモニーを期に、我が母校の保健学科/大学院保健学専攻が、益々発展して

いくことを祈念し、また我が保健学科同窓会の更なる一体感を目差すと同時に、新たな輝かしい歴史を刻んで行きたいと思います。

母校の保健学科/大学院保健学専攻の変革・発展と学術の振興に対して、保健学科同窓会の、より一層の協力と寄与がますます重要となってきているのを感じております。

保健学科同窓会/分科会相互の交流と親睦を深めつつ、我が母校の卒業生/修了生が、国内外の様々な分野で活躍し社会に貢献されていくために、そして10周年を迎えて今、更に大きく飛躍しようとしている保健学科/大学院保健学専攻に対する支援を進めてまいりたいと思います。



信州大学医学部保健学科同窓会会報 学長のご挨拶

信州大学 学長 山沢 清人

信州大学医学部保健学科同窓会の皆様には、平素より信州大学の教育研究にご支援を賜り、誠にありがとうございます。

信州大学では、昨年10月に『信州「知の森」づくり PLAN “the FIRST” 2011 - 2013 —持続可能な明日のために—』を策定いたしました。第二期中期目標期間中に、中期目標・中期計画を確実に実行し、卓越した人材の育成などの国立大学に課せられた責務を大学の機能強化によって実現するための大学運営に関する基本的な取組です。このなかで、高度な専門的知識と豊かな人間性を持つ心豊かな人材を育成し、人類社会の持続的発展を目指し未来を創造する先端的研究及び安全かつ安心な社会の構築に資する学術研究を推進することを決めています。信州大学は、国民の負託に応えるべく、PLAN “the FIRST” の遂行のために、本年度は各分野で具体的な取組の準備が進められています。

折しも、本年6月には文部科学省により「大学改革実行プラン」が策定され、国立大学に対して、相当なレベルでの改革が求められています。紙幅の関係で項目のみですが、以下をご覧ください。

- I 激しく変化する社会における大学の機能の再構築
 - 1. 大学教育の質的転換、大学入試改革
 - 2. グローバル化に対応した人材育成
 - 3. 地域再生の核となる大学づくり
(COC (Center of Community) 構想の推進)
 - 4. 研究力強化
- II 大学のガバナンスの充実・強化
 - 5. 国立大学改革
 - <個々の大学のミッションの再定義、それを踏まえた国立大学の新体制構築、機能強化>
 - ・すべての国立大学の学部・研究科ごとのミッションを再定義、改革の方向性を明確化
 - ・予算の戦略的配分・重点支援により、「リサーチ・ユニバーシティ」群の強化、機能別・地域別の大学群の形成、イノベーション人材を育成する大学院の飛躍的充実など活力ある国立大学を目指す
 - ・国立大学のガバナンス強化、国立大学法人の評価のあり方、財務上の規制緩和等の検討
 - ・海外・国内大学との連携を促進するとともに、そのための制度的選択肢を整備（一法人複数大学（アンブレラ方式）等）
 - ・大学の枠・学部の枠を越えた再編成等（「リサーチ・ユニバーシティ」群の強化、機能別・地域別の大学群の形成）
 - 6. 大学改革を促すシステム・基盤整備
 - <大学の機能強化、世界標準の質保証の仕組みの整備>
 - <大学群の形成に向けた大学連携の仕組みの整備>
 - <大学の教育水準の保証>
 - 7.～8. 略

この大学改革実行プランは、平成25年度から平成29年度の第2期教育振興基本計画期間に平成24年度を加えた6年間で大学改革実行期間と位置付け、本年度が開始動時期として、国民的議論・先行的着手、必要な制度・仕組みの検討が行なわれます。平成25年度から平成26年度は改革集中実行期となり、改革実行のための制度・仕組みの整備や支援措置が実施され、平成27年度から平成29年度の改革検証・深化発展期に取組の評価・検証や改革の深化発展がなされることとなります。改革の結果として目指す主な具体的目標や成果の例としては、



【生涯学び続け、主体的に考える力を育成】

- ・主体的な学修ができる環境を整備し、学生の学修時間を欧米並の水準に

【グローバル社会で活躍する人材の育成】

- ・20代前半までに同世代の10%が、海外留学等を経験

【我が国や地球規模の課題を解決する大学・研究拠点の形成】

- ・世界で戦える「リサーチ・ユニバーシティ」を10年後に倍増

【地域の課題解決の中核となる大学の形成】

- ・全国の地域圏で、大学が地域再生の主要な役割を果たすセンター（COC）に

等が挙げられており、これらの目標に向かって各大学が改革を実行していくこととなります。幸い、信州大学では文部科学省の大学改革実行プランに先行してPLAN “the FIRST” による独自の大学改革を開始しており、ここに含まれない項目についても、大型競争的資金への申請に当たって学内の体制を整えたことから、採択の有無に関わらず信州大学の改革として行なっていくことで、対応が可能です。この度、大学改革推進会議と6つのワーキングチームを設置し、「待ち」の姿勢ではなく、文部科学省へこちらから働きかける意気込みで、既に各ワーキングチームが次々と具体的な活動を開始しております。

教職員が一丸となって大学改革を進めてまいりますので、信州大学医学部保健学科同窓会の皆様にも、信州大学の一員として、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科同窓会名誉会長 寺田 克
(信州大学医学部保健学科長／看護学専攻 成人・老年看護学講座 教授)

早いもので学科長の職についてから任期の半分が過ぎようとしています。この間も同窓会の皆様には、在校生に対する教育支援や学科の運営補助にたくさんのご配慮をいただいております。この場をお借りし心から御礼申し上げます。

さて川上由行保健学科同窓会会長のご挨拶にもありますように、現在保健学科では「地域保健推進センター（仮称）」設立に向けて取り組んでいます。今回この件に関しましてこれまでの経緯等を含めてご説明させていただきます。

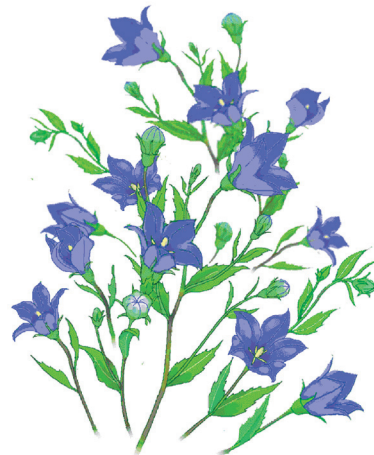
大学においては毎年度の終盤にかけて文部科学省に提出する次々年度の概算要求の取りまとめを行っています。本年1月の医学部補佐会議で部局重点事業計画ならびに平成24年度部局事業計画として保健学科中校舎・北校舎の耐震改修ならびに増築を大学本部に申請することを認めていただきました。しかし耐震改修（増築に関しても）の際には何らかのプロジェクトを立ち上げることが申請の条件となっており、保健学科教職員が全体として係われるプロジェクトとして、「地域保健推進センター（仮称）」の設立を目指すことになりました。これは保健学科教員の過去2年間の業績に約1500件の地域貢献に関する項目があることから、これをさらに発展させることが学部教育・大学院教育の充実にも繋がるとの考えから、本年2月の保健学科会議で承認いただきました。また大学本部より同案件の学部内予算、外部予算の調達予定に関する問い合わせがあり、本年3月の保健学科会議で一部増築に向けて学部内予算の計上ならびに教職員・保健学科同窓会を基盤とする「地域保健推進センター設置基金管理組織（仮称）」の設置を推進することになりました。これを受け、5月から6月にかけて開催された保健学科同窓会幹事会、同窓会理事会、同窓会総会で本案件に関する説明の機会を設けていただき、①「地域保健

推進センター設置基金管理組織（仮称）」の設置、②保健学科同窓会予算の一部を目的積立金として計上、③増築認可時の保健学科同窓会の皆様への寄付依頼、等をお認めいただ



きました。外部予算の調達予定、特に同窓会を含めた一丸となつての取り組みかどうかは大学本部ならびに文部科学省における評価対象の一つとして重要な事項とされており、今回お認めいただいたことに深く感謝いたしております。

本年6月の大学本部戦略企画会議で平成25年度概算要求「施設整備費補助金」『一般事業』の学内要求順位1位に決定され、文部科学省に提出されています。「地域保健推進センター（仮称）」の設立に伴う教育・研究のさらなる充実と増築による保健学科校舎の狭隘化の解消に向けて今後も努力する所存であります。同窓会の皆様のより一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



新入教員のご挨拶

自己紹介

渡邊 淳子

(看護学専攻 小児・母性看護学講座)

今年4月からお世話になっております母性看護学・助産学の渡邊淳子と申します。私は臨床では外科病棟や産婦人科病棟を経験してまいりました。その経験から湧いてきた疑問をもとにこれまで、優れたケアとされる熟練した技能とは何かについての研究を行ってきました。その研究において、優れたケアを実施しているとされている方々のところでフィールドワークを行い、参加観察やインタビューをさせていただきました。その過程を通して看護の素晴らしさを再確認し、まさに看護はサイエンスでありアートであると実感致しました。他には効果的な臨床実習指導のあり方についての検討をしてまいりました。この研究を通して人間の成長する力の大きさと無限の可能性を学びました。



これらの研究を通して得た看護の魅力を学生の皆様に伝えていきたいと考えております。今後も研究を継続しその成果を、臨床および教育の現場に還元できるようにしていきたいと思っております。

豊かな自然に囲まれた信州松本の地で、四季折々の風景を楽しみながら自己研鑽し、保健学科に貢献できるよう努力してまいりますので、今後とも皆様のご指導のほど、どうぞよろしくお願い致します。

自己紹介

山崎 浩司

(看護学専攻 成人・老年看護学講座)

昨年度後期から、看護学専攻成人・老年看護学講座の所属となりました山崎^{ひろし}浩司です。こちらに来て早くも一年が経とうとしています。大学院時代に専攻した文化人類学では、対象文化を理解するには最低1年以上フィールドワークをせねばならないと学びましたが、まさに最近やっと信大保健学科が、また松本がどんなところなのか、おぼろげながら理解しつつあります。



授業は、医療社会学や保健・医療・福祉政策論などを

担当していますが、現場・実践志向が強く、専門科目の勉強と実習に追われている学生に、どうすれば「社会」や「政策」に関心をもってもらえるのか、試行錯誤の日々が続いています。

研究は、専門の死生学と社会学を枠組に、若年伴侶死別者の方々にインタビューさせていただいて死別体験の理解に努めたり、青森県の方々のがん体験談をインターネット上で読み聴きできるデータベースを作ったり、マンガを題材に死生の問題を考察したりしています。また、最近、松本市民の有志の方々と、死別時に役立つ情報をまとめた小冊子を作るべく勉強会を始めました。

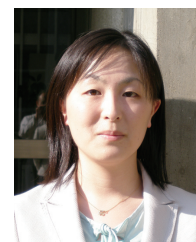
今後も大学と地域に貢献できるように頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

自己紹介

進藤 真由美

(看護学専攻 成人・老年看護学講座)

4月より成人看護学領域の助教として着任いたしました。教員歴はなく、大学病院と訪問看護で臨床経験があります。病院看護は4年ぶりですが、学生のできたという喜び・達成感を自分の原動力にできるような関わりができたらいいなと思っています。一朝一夕にできることではないので、まずは大学と病院内で迷子にならないようになって、お世話になる方の顔と名前をできる限り一致して覚えていくところから始めていきたいと思っております。東北の山形出身で今は新しい土地に慣れることで精一杯ですが、余裕ができたなら美しい松本の街も散策してみたいです。きつい坂道も自転車でスイスイと登っていく姿を通勤中の車から感心して見っていますが、臨床の時に着ていた白衣がきつくて着られないこともあるので、自転車通勤も今後考えていきたいと思っています。おいしい食べ物も多いので食べ過ぎないように注意しながらですが。



ご縁あって教員生活の第一歩を信州大学で踏み出せることは本当に光栄です。至らないことも多いかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。

自己紹介

山邊 えり

(看護学専攻 成人・老年看護学講座)

今年度より成人・老年看護学講座(成人領域)に着任致しました山邊えりと申します。

これまで、国内では九州、東海、関西地方に、国外ではオーストラリアに少し住んだ経験はありましたが、信州は初めて住む地域でした。しかし、日本アルプスの山々に囲まれ、気持ちも包容されているのか、どこか落ち着く場所だなと感じております。また、今までは看護師として救命センターやナーシングホーム、ホームケア等で働いており、教員として働くことも初めての経験でしたが、周囲の方々に支えられながら、4カ月を過ごして参りました。

今年はここ松本も例年以上に寒かったとの事ですが、雪の降る4月というのも初めての経験でした。あの頃は全く新しい環境の中で、先の見えないことも多く、不安もありましたが、今はこの美しい地に巡り合えたこと、そして出会えた人々に心より感謝しております。

今後たくさんの方々に関わらせて頂く中で、様々なことを学んでいきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



自己紹介

寺田 信生

(作業療法学専攻 基礎作業療法学講座)

昨年2011年10月から信州大学に赴任し、学部では解剖・組織学の講義と実習を担当、研究では人体の構造や機能を蛋白複合体から理解しようと細胞膜の周辺機構を解析しています。進化の賜物であると考えられている精巧な人体の構造には、いつも驚かされています。

生まれも育ちも信州です。夏には、よく上高地キャンプ場を拠点に、北アルプス登山をしました。岩に埋め込まれた杭と鎖を伝って、登り切った山頂から見る絶景は、心に焼き付いています。

よく遊んでよく学んですくすくと育ち、社会で働くようになって仲間や家族と語り、そして年老いて安らかに亡くなっていく。そんな当たり前のような人生を保つはずの健康は、時には予期せず一転して損なわれ、患者さんや家族は困難に行きあたることになります。

そんな時に本来の生活が少しでも取り戻す方向に助けられるために、健康を支えるための未知にあふれた人体の構造や機能を、もっともっと実体として理解して説明できるようになればと、思っています。そのために先人が積み重ねてきた科学技術をさらに発展させながら追究を深め、医療に貢献したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



カーティン工科大学短期留学報告

オーストラリア短期留学を終えて

理学療法学専攻3年 溝部 聡士

今回のオーストラリアの短期留学で僕はカーティン大学の生徒の実習を見学しました。オーストラリアでは理学療法士に開業権や診断ができるといった日本に無い権利が法的に認められていて、レベルも日本より高いため、どれほど違った仕事をしているのか楽しみにしていました。実際に見てみると、生徒であるはず

なのに、臨床の理学療法士とほとんど変わらない感じで、まるで医者かのように、患者さんと接して評価や治療をしていました。バイザーの先生との会話では、生徒自身に病態の仮説を立てさせ、その理由をきちんと述べた後に、それに対し評価や治療は何をするかを説明する形をとっていました。それが短時間で行われており、豊富な知識量と臨床経験が大学生のうちからきちんと形成されていました。そういったところが、オーストラリアの理学療法のレベルが高いひとつの理



ています。大学の授業でもディスカッションを行い、発表する機会が多く設けられていました。相手が何を考えているか、などお互いがお互いに興味を持ち話すことで新たな考えを知ることが出来ました。そして英語は世界で通用し、多くの人が使っていることを痛感する機会となりました。

由なのだと感じました。また、授業にも一部参加させていただきましたが、生徒全員が先生に対して質疑応答時に挙手をしていたので、日本人の気質も多少はあるかも知れないけれども、学習意欲や積極性がすごく高いなと思いました。

留学は確かにお金もかかるし不安も多いけれども日本とは違った習慣や文化、価値観の違い、そして僕らのような将来医療関連の職につく人にはその国の医療水準や制度、発達している技術など、勉強できることはたくさんありますし、日本に帰ってきた後に、特にレベルの高い国の現状を見ると勉強のモチベーションも上がります。これからの大学生活で、留学で学んだことを少しでも生かしていけたらと思います。機会があればまた留学をしてさまざまな国の医療を知りたいです。

病院の見学は、オーストラリアの人が家族を大切にしているか知る機会となりました。頻繁にある家族との面会、夫だけでなく家族全員が立ち会うことが出来る出産、感染や救急性がなければ基本は外来で治療を行う、面倒を見てくれる人がいない時はボランティア等が訪問してくれる…それらは「家にいた方が患者さんは安心できる」「家族と一緒に過ごすのが当たり前」という考えからでした。また、医師や看護師など医療スタッフの立場は対等に扱われ、退院の時期などはすべてチームで判断することになっていました。日本でもチーム医療の重要性というのがよく言われるようになりましたが、まだまだ不十分な部分もあり将来このようになっていくと良いなと思います。

ホストファミリーとの交流や週末の観光など楽しいこともたくさんありました。3週間はとても短くあっという間で、日本の良さに気付いたり、私自身の視野

Curtin 大学夏期海外単位認定プログラムに参加して

看護学専攻4年 田野中雅奈

参加したいと思ったきっかけは各専門領域の実習を行っていくうちに海外と日本の医療の違いとは何だろうか、実際に海外に行って経験できるのであればぜひ体験してみたい、という思いからでした。

オーストラリアは移民を多く受け入れている国です。考えの基となっている文化が違っているため、自分自身の考えを持ち意見を言うことが当たり前になっ



が広がったり、大変良い機会になりました。ありがとうございました。

カーティン短期留学プログラムを終えて

看護学専攻3年 原田ひとみ

私にとってこの短期留学のプログラムは、初めての海外留学でした。はじめは言葉も通じず3週間無事に終わることができるのか不安でした。しかし、時間が経つにつれて環境にも慣れていき、充実した3週間を送ることができました。

大学での授業は、聞き取ることに苦労しました。英語の授業では、学生とのディスカッションが中心であり、他国の学生と交流することで他国の文化も学ぶことができ、ほとんど海外の学生と交流したことがない私にとって、とても新鮮な授業でした。また、授業の一環として、オーストラリアのいくつかの病院に行き、オーストラリアの医療について学び、日本との違いについて学ぶ機会がありました。日本人のナースも働いており、その方々にも話を聞くことができました。海外の病院見学は初めての経験であり、学ぶことや驚くことがたくさんありました。

ホストファミリーの方々と過ごした3週間も、とても充実していました。私は英語がほとんど話せなかったのですが、ホストファミリーの方々はとても優しく、とても楽しくオーストラリアでの生活を送ることができました。3週間という日は本当に短いものであり、ホストファミリーとすごした時間がとても短く感じられました。ホストファミリーの方々には、本当に感謝しています。

私はこの3週間で多くのことを学ぶことができました。また、さまざまな面で自分が勉強不足であったことを実感したので、この留学をきっかけに、将来に向けてしっかり勉強していきたいです。



このプログラムを通して学んだこと

検査技術科学専攻3年 尾関 沙耶

私にとって、今回のカーティンプログラムは初めての海外でした。海外留学、英語には以前から興味があり、信州大学にこのような海外プログラムがあるということが、信州大学に入学したいと思った理由の一つでもあったため、このプログラムには卒業するまでに必ず参加したいと思っていました。

出発が近付くにつれて不安もありましたが、振り返ってみるとオーストラリアでの3週間は毎日楽しくとても充実していました。長いと思っていた3週間も実際はあっという間で、帰る時にはもっといたいと思えるほどでした。

この3週間を通してたくさんのことを学ぶことができました。英語やオーストラリアの医療制度ももちろん学びましたが、一番ためになったのは、ホストファミリーやカーティン大学に通う生徒たちと触れ合ったことです。オーストラリアは本当に多国籍で、参加した英語のクラスではアラブ人やベトナム人などさまざまな国籍の人たちと触れ合うこともできました。

日本はあまり多国籍ではないため、違う国籍の人たちと触れ合うことに少し抵抗を持っていましたが、オーストラリアに来てさまざまな人たちと触れ合い、英語があまり話せない私にも分け隔てなく優しく接してくれて、コミュニケーションに人種や国籍、言語の違いは関係ないんだなと思いました。日本でももっと世界に目を向け視野を広く持つことが大切だということ学びました。このプログラムに参加して本当に良かったと思っています。



平成23年度 活動報告

実験実習関連装置を同窓会から ご寄附いただきました

平成23年度は検査技術科学専攻の実験・実習関連機器の購入に際しまして、保健学科同窓会から多額のご援助をいただきありがとうございました。専攻の教員・学生・大学院生を代表して感謝申し上げます。他の専攻の方々にはお分かりになりにくいと思いますので簡単に用途などにつきまして説明させていただきます。

オートクレーブは細菌検査学実習などにおいて、細菌

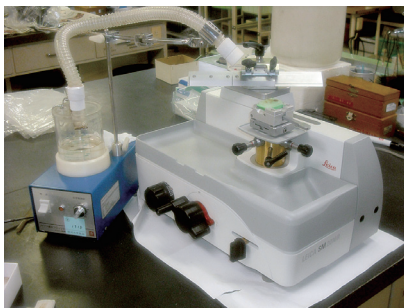


オートクレーブ

を培養するとき使用する寒天培地の材料内に混入している微生物やその時に使用する器具類に付着している微生物を121℃ 2気圧20分間で完全に死滅させる装置です。

ミクロトームは、悪性腫瘍などを病理学的確定診断に必要となる組織標

本を作製するための装置で、熟練した技師さんですと1.0μmの薄さに切ることができるものです。大学にある8台すべては旧式のものであり、現在の病院検査室で使用されている新型のものに実習で慣れておく必要があるため購入していただきました。病理組織検査学実習で使用します。



ミクロトーム

純水製造装置は、病態化学検査学・酵素検査学実習・脂質検査学実習・免疫



純水製造装置

検査学実習などあらゆる実習で使用するイオン交換水および蒸留水を水道水から作る装置です。実習に使用する水は、水道水に含まれているいろいろな陽イオンや陰イオンが含まれては

正しい値がえられないので、それらを陽イオンおよび陰イオン交換樹脂あるいは蒸留により取り除く必要があります。

エアコンは、呼吸機能検査学実習・循環機能検査学実習・脳平衡機能検査学実習・神経筋機能検査学実習・画像解析学実習時に使用する生理系実習室に設置していただきました。エアコンがないこれまでは、暑いときには患者役の学生が汗をかいてしまい、検査用電極がうまく装着できないため雑音ははいてしまいました。また、寒い時にはストーブだけではとても実習室が温まらず、患者役の学生が寒くて風邪をひいてしまいました。

今後は、これらの装置を十分に活用させていただき、これまで以上に実習経験を積んだ学生や大学院生を輩出するよう努めてまいります。



エアコン

スポーツ大会・懇親会

平成23年9月30日（金）に信州大学保健学科検査技術科学専攻スポーツ大会を松本市総合体育館にて行いました。このスポーツ大会を開催するにあたって同窓会の支援によって、体育館の予約、競技用器具の借り入れなどスポーツ大会の準備に必要な物を揃えることができました。今年のスポーツ大会には、1年生19人、2年生29人、3年生31人、計79人が参加し、ドッジボール、大縄跳び、早食い・早飲み、バレーボール、フットサル、障害物競争（3人4脚、パン食い、借り物競走、馬跳びなど）を、1～3年生の合同チーム（A～Dの4チーム）を作って競技しました。

スポーツ大会の後は、大学内の旭会館で懇親会を行い、先生方と学生で会話を交えながら軽い食事をしました。懇親会は、先生方や学生から支援を募って行い、楽しく懇親会を終えることができました。今回のスポーツ大会・懇親会を通して、学年を超えての生徒間での親密度が向上し、先生方とも交流できる貴重な場となりました。



卒業祝賀会



平成24年3月21日（水）に旭会館一階にて保健学科卒業祝賀会を開催しました。寺田学科長と各専攻の成績優秀学生です（看護学専攻・小林恵美さん 検査技術科学専攻・伊波若葉さん 理学療法学専攻・尾崎佑樹さん 作業療法学専攻・市川亜矢子さん）。

大学院修了祝賀会

平成24年3月15日(木)に保健学科第一会議室にて大学院修了祝賀会を開催しました。第一期の博士後期課程修了者は3名で、以下の研究課題でした。



赤羽貴行さん

A Case of Wound Dual Infection with *Pasteurella dagmatis* and *Pasteurella canis* Resulting from a Dog Bite – Limitations of Vitek-2 System in Exact Identification of *Pasteurella* Species – (イヌ咬傷から分離された *Pasteurella dagmatis* と *Pasteurella canis* 創部重複感染症の1例 – Vitek-2 システムによる *Pasteurella* 属の正確な同定の限界 –)

春日恵理子さん

Bactericidal activities of woven cotton and nonwoven polypropylene fabrics coated with hydroxyapatite-binding silver/titanium dioxide ceramic

nanocomposite “Earth-plus”

(アースプラス (酸化チタン, ハイドロキシアパタイト, 銀) 加工の施された綿織布とポリプロピレン不織布の医療関連感染起因性病原菌に対する殺菌活性)

久保田聖子さん

Pathophysiological Investigation of the Gastric Surface Mucous Gel Layer of Patients with Helicobacter pylori Infection by Using Immunoassays for Trefoil Factor Family 2 and Gastric Gland Mucous Cell-Type Mucin in Gastric Juice

(胃液における TFF2 と胃腺粘液細胞型ムチンのイムノアッセイを用いた Helicobacter pylori 感染患者の胃表面粘液ゲル層の病態生理学的研究)

特別講演

平成23年6月25日(土)、「老いの時代－震災を生きるということ－」をテーマに、伊藤秀樹氏(宅老所井戸端げんき代表)の公開講演会を開催致しました。宅老所の立ち上げから日々



伊藤 秀樹 氏

の運営を通して“生きること”を語っていただきました。また、平成24年6月23日(土)には「地域で共に生きるということ」を演題として海老原宏美氏(NPO法人自立支援センター東大和理事長)の公開講演会を行いました。障害者の地域生活確立のための支援や人口呼吸器ユーザーのためのネットワークまで様々な活動を伺いました。



海老原 宏美 氏

高宮脩先生 最終講義

平成24年3月末をもって、検査後術科学専攻の高宮脩先生が退職されました。

平成24年2月10日(金)には最終講義「邂逅と謝念－臨床検査に会って－」が旭総合研究棟9階講義室において行われました。当日は、学内・学外関係者など220名以上のご参加をいただきました。



高宮 脩 先生

総会記録

平成24年度信州大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日時 平成24年6月23日(土) 15時15分～16時15分

場所 旭総合研究棟9F講義室A/B

出席者 寺田 克 同窓会名誉会長・川上由行・亀谷博美・奥村伸生・柳澤節子・下里誠二・横川吉晴・伊藤喜世子・寺澤文子・小穴こず枝・亀子文子・赤羽貴行・務台 均・相川真名美・高橋理沙・日高宏哉・阪口しげ子・塩澤 涼・寺田 克・村山忠勇

1. 保健学科同窓会会長 川上由行挨拶
2. 保健学科同窓会名誉会長(寺田 克学科長)挨拶
3. 議長選出
務台 均氏を選出した。
4. 平成23年度事業報告及び決算報告について
資料1-1により奥村伸生幹事から事業報告があり、続いて資料1-2、1-3により柳澤節子幹事から決算報告があり承認された。

5. 平成23年度会計監査報告
資料2より寺澤文子監事から平成24年6月7日(木)に小池聖子監事と通帳・帳簿・証拠書類を確認したところ適正に処理されていた旨の報告があった。
6. 平成24年度会費納入状況報告書
資料3により柳澤節子幹事から説明があり、会費納入に対して更なる協力要請があった。
7. 平成24年度事業計画及び予算書(案)について
資料4-1により奥村伸生幹事から事業計画の説明があり、続いて資料4-2により柳澤節子幹事から予算書(案)の説明があり承認された。
尚、別添資料(部局重点事業計画)により寺田 克同窓会名誉会長から地域保健推進センター(仮称)設置について説明があり平成24年度から同窓会として予算化して戴くよう要望がありました承認された。
8. その他
なし。

平成23年度事業報告

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助

- 1) 学生図書購入
- 2) 学術国際交流推進(オーストラリア, カーティン大学短期留学プログラム)
- 3) 特別講演の開催
平成23年度保健学科同窓会総会特別講演
平成23年6月25日(土) 旭総合研究棟9階
『古い時代-震災を生きるということ』
伊藤英樹先生 宅老所「井戸端げんき」代表
- 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
・検査技術科学専攻 平成23年10月26日(水)
・理学・作業療法学専攻 平成23年12月2日(金)
・看護学専攻 平成24年1月18日(水)
- 5) 卒業式・学位記授与式
・卒業祝賀会、修了祝賀会補助
・卒業、修了記念品の贈呈集合写真)
・竹内松次郎賞記念楯(優秀生表彰記念楯)
- 6) 就職活動支援
- 7) 入試広報活動補助
・キャンパス見学会補助
・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
- 8) 学生課外活動支援
・新入生合宿研修補助
・松本ぼんぼん参加補助
・検査技術科学専攻スポーツ大会
- 9) 学習環境整備
・検査技術科学専攻: オートクレーブ、滑走式ミクロトーム他

2. 保健学科同窓会分科会支援

- 1) 看護学専攻: アルプス会・桐の木会
- 2) 検査技術科学専攻: 臨嶺会
- 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻: 州嶺会

3. 保健学科同窓会の運営について

- 1) 同窓会ホームページの運営
- 2) 同窓会だより第9号の発行
- 3) 同窓会総会および理事会の開催
 - ① 平成23年度総会の開催
平成23年6月25日(土) 15:15～16:15
旭総合研究棟9階
 - ② 理事会の開催
平成24年6月14日(木) 18:30～20:30
保健学科第一会議室
 - ③ 幹事会の開催
平成23年11月21日(水) 18:00～20:00
保健学科小会議室

平成24年5月15日(火) 18:00～20:00

保健学科小会議室

・総会にむけての準備、計画

平成24年6月1日(金) 18:00～20:00

保健学科小会議室

・会計報告、予算案)作成について

・総会の準備、計画

4) 同窓会事務局の運営

5) 信州大学同窓会連合会との連携

・平成23年7月23日(土)

第12回信州大学同窓会連合会役員会

1. 平成23年度予算書(案)

2. 信州大学同窓会連合会代表・副代表の選出について(可知代表(人文)、柳澤副代表(工学)が選出される)

3. 同窓会連合会のあり方、活動について

・高等教育機構における「就業力育成支援事業」における応援

・学生課外活動等における応援…横断幕作成補助

・平成24年2月7日(土)

信州大学同窓会連合会幹事会

信州大学同窓会連合会役員会提出議案の審議

・平成24年2月11日(土)

第13回信州大学同窓会連合会役員会

平成24年度学生および卒業生表彰候補について

同窓会連合会の活動について

全学同窓会の設立等の検討について

東京同窓会への協力について

6) 信州医学振興会支援

平成23年度医学部保健学科同窓会決算書

収入

平成24年5月31日現在
(単位:円)

事 項	23年度予算額	23年度決算額	差 額
前年度繰越金	1,367,303	1,367,303	0
会 費(在校生)	1,495,000	1,495,000	0
会 費(新入生・3年次編入・大学院含む)	8,080,000	8,140,000	△ 60,000
利 息	0	1,124	△ 1,124
合 計	10,942,303	11,003,427	61,124

支出

事 項	23年度予算額	23年度決算額	差 額	
1. 在校生の教育支援及び 保健学科の運営費補助	・図書購入費	800,000	800,000	0
	・学術国際交流推進経費	700,000	700,000	0
	・特別講演会経費	100,000	34,045	65,955
	・実習指導者連絡協議会経費	150,000	115,992	34,008
	・卒業祝賀会経費	350,000	205,229	144,771
	・卒業生記念品代	160,000	157,600	2,400
	・就職活動支援	50,000	0	50,000
	・入試広報活動経費	200,000	203,923	△ 3,923
	・学生課外活動経費	300,000	104,083	195,917
	・学習環境整備	2,400,000	2,585,100	△ 185,100
小 計	5,210,000	4,905,972	304,028	
2. 保健学科同窓会分科会 (各専攻単位)運営費補助	・アルプス会・桐の木会	1,500,000	1,500,000	0
	・臨嶺会	860,000	860,000	0
	・州嶺会	820,000	820,000	0
	・上記振込み手数料	1,380	1,380	0
小 計	3,181,380	3,181,380	0	
3. 保健学科同窓会運営費	・同窓会ホームページ及び会報編集会議等	80,000	63,000	17,000
	・同窓会だより	400,000	378,210	21,790
	・同窓会総会等経費	300,000	218,200	81,800
	・事務処理等人件費	640,000	652,000	△ 12,000
	・通信費	40,000	32,560	7,440
	・消耗品	80,000	58,781	21,219
	・電気・電話使用料	40,000	28,005	11,995
	・信州大学同窓会連合会会費	70,315	70,315	0
	・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
	小 計	1,700,315	1,551,071	149,244
4. 予備費	850,608	60,525	790,083	
合 計	10,942,303	9,698,948	1,243,355	

収 入	11,003,427
支 出	9,698,948
差引残額(翌年度繰越額)	1,304,479

記念事業等特別積立金繰越額

平成24年5月31日現在
(単位:円)

事 項	22年度 繰越額	23年度内訳		23年度 繰越額
		収 入	支 出	
記念事業等特別積立金	3,889,786		0	3,889,786
利 息(8月)		310		3,890,096
利 息(2月)		310		3,890,406
計	3,889,786	620	0	3,890,406

平成24年度事業計画

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
 - 1) 学生図書購入
 - 2) 学術国際交流推進(オーストラリア, カーティン大学短期留学プログラム)
 - 3) 特別講演の開催
平成24年6月23日(土) 旭総合研究棟9階
「地域で共に生きるということ」
海老原宏美先生 (NPO法人自立支援センター東大和理事長)
 - 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
 - 5) 卒業式・学位記授与式
・祝賀会補助
・卒業記念品の贈呈(集合写真)
・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
 - 6) 就職活動支援 各専攻の就職支援活動状況の把握
 - 7) 入試広報活動補助
・キャンパス見学会補助
・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
 - 8) 学生課外活動支援
・新入生合宿研修補助
・松本ぼんぼん参加補助
・学生、教職員ソフトボール交流会
・学生のボランティア参加等の活動支援
 - 9) 学習環境整備
・大学院学生支援
・学部学生支援
 - 10) 地域保健推進センター設置基金の創設
2. 保健学科同窓会分科会支援
 - 1) 看護学専攻: アルプス会・桐の木会
 - 2) 検査技術科学専攻: 臨嶺会
 - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻: 州嶺会
3. 保健学科同窓会の運営について
 - 1) 同窓会ホームページの運営
 - 2) 同窓会だより第10号の発行
 - 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ① 平成24年度総会の開催
平成24年6月23日(土) 15:15～16:15 旭総合研究棟9階
 - ② 理事会の開催
年1回5～6月
 - ③ 幹事会の開催
 - 4) 同窓会事務局の運営
 - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
 - 6) 信州医学振興会支援

平成24年度医学部保健学科同窓会予算書

平成24年5月31日現在(単位:円)

収入

事 項	24年度予算額	23年度決算額	差 額
前年度繰越金	1,304,479	1,367,303	△ 62,824
会 費(在校生)	1,325,000	1,495,000	△ 170,000
会 費(新入生・3年次編入生・大学院含む)	8,255,000	8,140,000	115,000
利 息	0	1,124	△ 1,124
合 計	10,884,479	11,003,427	△ 118,948

支出

事 項	24年度予算額	23年度決算額	差 額
1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助			
・図書購入費	800,000	800,000	0
・学術国際交流推進経費	700,000	700,000	0
・特別講演会経費	100,000	34,045	65,955
・実習指導者連絡協議会経費	150,000	115,992	34,008
・卒業祝賀会経費	350,000	205,229	144,771
・卒業生記念品代	160,000	157,600	2,400
・就職活動支援	50,000	0	50,000
・入試広報活動経費	200,000	203,923	△ 3,923
・学生課外活動経費	300,000	104,083	195,917
・学習環境整備	2,400,000	2,585,100	△ 185,100
・地域保健推進センター設置基金	500,000	0	500,000
小 計	5,710,000	4,905,972	804,028
2. 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)運営費補助			
・アルプス会・桐の木会	1,600,000	1,500,000	100,000
・臨嶺会	800,000	860,000	△ 60,000
・州嶺会	820,000	820,000	0
・上記振込み手数料	1,380	1,380	0
小 計	3,221,380	3,181,380	40,000
3. 保健学科同窓会運営費			
・同窓会ホームページ	70,000	63,000	7,000
・同窓会だより	400,000	378,210	21,790
・同窓会総会等会議費	300,000	218,200	81,800
・人件費	640,000	652,000	△ 12,000
・通信費	40,000	32,560	7,440
・消耗品	60,000	58,781	1,219
・電気・電話使用料	30,000	28,005	1,995
・信州大学同窓会連合会会費	70,315	70,315	0
・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
小 計	1,660,315	1,551,071	109,244
4. 予 備 費	292,784	60,525	232,259
合 計	10,884,479	9,698,948	1,185,531

同窓会役員

名誉会長：寺田 克 (医学部保健学科)	理事：検査技術科学専攻4名	理事：大学院(前期)1名
会長：川上 由行 (医学部保健学科)	塩沢 涼 (検査技術科学専攻学生)	征矢 佳輔 (博士前期課程院生)
副会長：亀谷 博美 (医学部附属病院)	赤羽 貴行 (安曇野赤十字病院)	大学院(後期)1名
理事：看護学専攻8名	川崎 健治 (医学部附属病院)	高橋 理沙 (博士後期課程院生)
三井 貞代 (医学部付属病院)	亀子 文子 (医学部保健学科)	幹事：奥村 伸生 (医学部保健学科)
伊藤喜世子 (医学部付属病院)	理学療法学専攻2名	下里 誠二 (医学部保健学科)
青柳美恵子 (医学部附属病院)	保木井雅恵 (理学療法学専攻学生)	柳澤 節子 (医学部保健学科)
赤羽 公子 (医学部附属病院)	杉田 勇 (諏訪中央病院)	横川 吉晴 (医学部保健学科)
三輪百合子 (長野県看護協会)	作業療法学専攻2名	監事：小池 聖子 (医学部附属病院)
阪口けさみ (医学部保健学科)	山下 桃花 (作業療法学専攻学生)	寺澤 文子 (医学部保健学科)
野澤 咲希 (看護学専攻学生)	井戸 芳和 (医学部附属病院)	事務局：清水 敏勝
相川真名美 (看護学専攻学生)		

信州大学医学部保健学科同窓会会則

信州大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会(以下「本会」という。)と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
 - ロ 信州大学医療技術短期大学の卒業生
 - ハ 信州大学医学部保健学科(以下「本学科」という。)の在学生及び卒業生
 - ニ 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程及び後期課程(以下「本大学院」という。)の在学生及び修了生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4

分の3以上の議決により、これを除名することができる。
正会員は、細則に定める会費を入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 1名
 - 三 理事 18名(看護8名;検査4名;理学2名;作業2名;大学院生博士前期課程1名、後期課程1名)
 - 四 幹事 若干名
 - 五 監事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
 - 四 幹事は、会長が委嘱する。
 - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。
- 第13条 役員は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
一 事業及び決算報告
二 事業計画及び予算
三 会則の制定及び改廃
四 役員を選出
五 顧問の推挙
六 その他の必要事項
2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数の

ときは議長がこれを決する。

- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。
第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。
この会則は、平成16年4月1日から施行する。
この会則は、平成19年4月1日から施行する。
この会則は、平成21年4月1日から施行する。

信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生及び修士大学院生については、編入時もしくは大学院入学時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
- 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………3万円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………1万円また、3年次編入生、博士前期課程及び博士後期課程の大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を超えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………1万5千円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………5千円保健学科同窓会会員が博士前期課程および博士後期課程に入学した場合は、(1)在学生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

附 則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。
この細則は、平成16年4月1日から施行する。
この細則は、平成19年4月1日から施行する。
この細則は、平成21年4月1日から施行する。

編・集・後・記

昨年以上に暑い夏を過ごしました。お盆を過ぎれば少し秋がやってくるかと思っていたら真夏日、猛暑日の連続でした。講義のない夏休み中、8月には保健学科南棟の一部の教室・実習室にエアコン設置工事が行われました。9月からは少し学習環境が改善されそうです。学生の教育支援といえは、

毎年同窓会予算から図書や実験実習にかかる機材等の購入をしています。大きく目につくことではありませんが、これも学びやすくなることの一助だと思います。大学生・大学院生が学びの場としてよかったと思えるような環境作りを同窓会として支援したいところです。 保健学科 Y. Y.